

令和6年度分 指定管理施設の管理運営状況(年間)モニタリング評価表

1 施設概要

施設の名称	浦添市立うらそえぐすく児童センター
指定管理者名	特定非営利活動法人シンコペーション
指定期間	令和6年4月1日～令和10年3月31日

2 利用状況

利用月	利用者目標数	利用者数	利用率%
4月～9月	8,000	9,968	124.60
10月～3月	8,000	6,405	80.06
合計	16,000	16,373	102.33

3 収支の状況

	予算額	実績額	差額
収入			
指定管理料	16,568,800	16,568,800	0
利用料金	100,000	68,300	31,700
受取利息	100	6,903	-6,803
収入合計(A)	16,668,900	16,644,003	24,897
支出			
人件費	12,522,629	11,022,429	1,500,200
外部委託費	1,380,507	908,016	472,491
その他経費	2,765,764	3,079,843	-314,079
支出合計(B)	16,668,900	15,010,288	1,658,612
収支合計(A)-B)	—	1,633,715	—

4 精算額 1,633,715 円

5 自主事業

事業名	内容	利用者数
<p>子ども食堂カフェキャッスル ♪サウンド</p>	<p>・これまで指定管理を受託していた「宮城ヶ原児童センター」にて実施していた、こどもの貧困対策自主事業として公設公営時から10年連続して[一堂に会しての食事]「調理弁当の配布」「食糧パントリー」をうらそえぐすく児童センターでも実施を開始。</p> <p>・企業個人からの寄付活用の他</p> <p>①子ども家庭庁「ひとり親世帯などのこどもの食事支援補助事業」(分配団体:認定NPO法人キッズドア)</p> <p>②全国子ども食堂支援センター認定NPO法人むすびえ助成金</p> <p>③郵便局フードドライブ</p> <p>④浦添市子どもの居場所連絡会経由の寄贈品活用</p> <p>以上のようなさまざまな方からの支援を受けながらセンター校区のみならず、市内全体の子ども世帯の食支援を実施することが出来た。</p> <p>※子ども食堂運営者代表として「浦添市てだこ未来応援協議会」(子ども貧困対策会議)委員を拝命している。</p>	<p>5,280</p>
<p>音楽での子ども支援活動 「ムジカバンビーネ」</p>	<p>・こどもの貧困対策自主事業として特に文化的相対的貧困「体験格差解消」の為宮城ヶ原児童センターにおいて公設公営時から9年連続して実施している。県内唯一のプロオーケストラ琉球交響楽団員、県立芸術大学生の協力を得て、プロ音楽家からの管弦打楽器の体験指導を受けることにより自己肯定感の向上、不登校支援などに成果を積み重ねている。本年度はうらそえぐすく児童センター校区内の子どもたちにも活動の輪を広げた。</p> <p>・浦添市観光協会、文化協会事業への出演依頼や地域自治会の行事での演奏依頼も多く、児童館を利用する子どもたちの活躍の場＝自己現実感の醸造にも寄与している。</p> <p>・12月にはてだこホールにて成果発表会「Volare Le Bambine VOL7(浦添市後援)」を開催し約70名でのオーケストラ演奏を披露することが出来た。</p> <p>・年度末には国内ツアーでご活躍の「グルッポムジチーニ」音楽集団演奏会でのプレステージを務めさせていただき、ムジカバンビーネの成果と期待を県内外へ発信することが出来ている。</p> <p>※JANPIA休眠預金助成事業として実施</p>	<p>1,200</p>

<p>不登校児童生徒の緊急支援及び地域ネットワーク構築事業 組織基盤強化事業 ※JANPIA休眠預金助成事業活用</p>	<p>・JANPIA休眠預金助成を受け「不登校児童生徒の緊急支援及び地域ネットワーク構築事業」として実施。校区内の不登校児童生徒支援を食支援、学習支援、生活支援の内容で児童館を活用して行った。 ・大学生スタッフとの協働により学校への授業サポートにも入り関係機関との信頼関係の構築にも至った。 ・不登校や課題を抱える生徒さんを受検、合格、入学までサポートすることが出来た。 ・活動の一環としてプロダンサーによるダンス教室の他地域資源を活用しての「珠算体験教室」(協力:宮城珠算学校)「ほめ愛自己肯定感アップトレーニング」など自己肯定感向上のための活動も行った。 ・この事業を通して組織基盤強化への取り組みも行った。(ガバナンスコンプライアンスへの取り組み)</p>	<p>5,900</p>
<p>民間子ども食堂ネットワーク「ユニゾンハーツ」 ※関連受託事業 令和6年度浦添市子どもの居場所連絡会事務局運営事業</p>	<p>・子ども食堂事業実績を経て、市内児童館を含めた居場所の横つながりを広めるためのネットワーク構築事業。令和4年度、市内4子ども食堂(児童館)の連携により立ち上げ、主幹団体として市内15の加盟団体へ支援を行っている。この実績により、令和5年度からは「浦添市子どもの居場所連絡会運営実施団体」として浦添市より受託することになり、行政委託での子ども居場所支援と民間ネットワークでの両輪の支援を構築している。 行政委託連絡会事業と民間ネットワークとの連携により、児童館だけでなく市内28か所の居場所への寄贈物資や情報の共有を行っている。 ①子ども家庭庁「ひとり親などの子どもの食事等支援助成事業」(分配団体:一社コムタンク北九州)採択 ②沖縄県子どもの居場所ネットワーク(沖縄県社会福祉協議会)連携 ③なは子どもの居場所ネットワーク糸(那覇市社会福祉協議会)連携 ④ケンタッキーフライドチキン(浦添店・パルコシティ店・末吉店)連携 ⑤全国子ども支援センター認定PO法人むすびえ 冬基金助成</p>	<p>5,400</p>
<p>合計</p>	<p></p>	<p>17,780</p>

6 指定管理者の分析(サービス向上の取組等)

1, 総括 ～利他の精神で取り組むをテーマに～

法人として2カ所目となる指定管理受託開始の一年目は、前管理者からの引継ぎなどが(管理・運営共に)ほとんどないまま施設と人材を引き継いだ為、施設の整備、児童館を運営するにあたっての職員規範意識改革などに苦慮した場面が多かった。1事業所の宮城ヶ原児童センタースタッフをはじめとする関係各位の努力により館内清掃の一つ一つ、地域関係機関との連携などにも丁寧に対応をさせて頂き、多くの協力者と共に運営体制を整えることが出来た。

自センターの運営だけでも厳しい環境ではあったが、行政からの協力依頼には法人挙げて取り組んだ。

特筆したい点として

(1) 夏休み前倒し開館への協力実施

朝8時開館に伴い職員、パート、アルバイト、地域住民、法人役員まで総動員で開館日二名以上の配置を行い、地域の子もたちの朝食支援から見守りを行い、必要な場合にはたこ未来応援員など関係機関に繋ぐことも出来た。また、民生委員児童委員の皆さんや地域自治会のご協力もあり、助けていただいたことにも感謝である。

(2) 浦添市児童センターフェスティバル実行委員会本部担当

本来であれば全センター輪番にて担当であるところ、当法人への担当ご依頼を受け(10年間で3回本部担当)、うらそえぐすく、宮城ヶ原の2センター合同での本部運営を請け負った。市民体育館での合同開催に向けて全センターへの発信、会議運営、協力企業との調整など多岐に渡り行った。当日の巡回バス運転手も当法人から手配を行うなど、法人全体として「自団体のみならず浦添市全体を考えて利他の精神で動くこと」にチーム一丸で遂行することが出来た。

・その他行政委託を受ける法人として成長できるよう、各助成伴奏支援をいただき、当法人が児童館を拠点として地域連携を実施している「エコマップ」を作成することが出来た。(連携先100所以上)

2, 施設管理について

(1) 日常清掃と定期的な館内ワックスがけ、施設周辺の伐採作業なども全スタッフにて行う。

お預かりしている施設は自分たちで愛でることにより利用者に安心していただけるように心がけている。

(2) 地域企業や住民の方々との協力もあり、軽微な修繕が可能となっている。(地域コミュニティの啓発活動につながる)

(3) その他施設12条点検や日常の保守管理点検で生じた指摘箇所については速やかに業者修繕を行っている。

(4) 福祉避難所でもあるがIH調理機設備となっていたため、停電時にも対応できるようガス調理器へ取り換えた。

(5) 経費節減の為、地域人材、社会資源、助成事業も活用している。

3, 人材育成について

(1) 指定管理者の変更に伴い雇用についての正しい理解を得るために、社労士他中小企業診断士協会やJANPIAのコンプライアンス研修を受け、各種規程の作成と、専門家による職員に対する説明会を行った。

(2) 児童福祉法に則る施設職員として、知識のアップデートと日々の業務への取り組みに生かすべく、琉球大学 本村教授を講師として招き、2回に渡る「自己肯定行動とトラウマ記憶について」研修を実施した。

(3) 継続して働ける職場作りの為に福利厚生として全職員の健康診断補助を行った。また、育休制度を利用して職員が復帰できる体制作りに取り組んだ。

7 項目別評価表

市評価年月日 令和8年3月3日

指定管理者と市が評価する。(4:優良 3:適正 2課題含 1要改善)

施設の状況により、項目内容は変更する場合がありますが、25項目数は変更しない。

項目	維持管理に関すること(年2回以上) 【適正性】	自主評価	市評価
①	法令等を遵守しているか。	4	4.0
②	労働環境は適正か。	3.8	4.0
③	収入・支出の取扱は適正か。	4	3.5
④	年間事業計画のとおり業務を遂行しているか。	4	4.0
⑤	開館時間、休館等は適正か。	4	4.0
⑥	利用者の個人情報保護は適正か。	4	4.0
⑦	日常の事故防止、安全対策は適正か。	4	3.0
⑧	日常の清掃は適正か。	4	3.5
⑨	防犯・警備業務は適正か。	4	3.0
⑩	備品の管理は適正か。	4	3.5
⑪	施設の維持管理(修繕)は適正か。	4	4.0
⑫	危機管理体制(緊急時対応)は適正か。	3.8	3.5
⑬	施設の使用許可、使用料の減免は適正か。	4	3.5
⑭	利用者に対する接客や職員態度は適正か。	3.9	3.5
⑮	施設の維持管理に係る人員は適正か。	3.8	3.0
⑯	施設の定期保守点検は適切か。	3.8	3.5
16項目	小計	63.1	57.5

点数を記載する。

項目	経営等事務処理に関すること(年1回以上) 【効率性】	自主評価	市評価
①	適正な経理事務であるか。	4	3.5
②	省エネルギー等環境配慮に努めているか。	3.9	3.5
③	支出の減少を図る取組を行っているか。	4	4.0
④	職員の資質・能力の向上を図る取組をしたか。	4	4.0
4項目	小計	15.9	15.0
項目	【有効性】		
①	施設の設置目的が十分に達成できたか。	4	4.0
②	利用者の意見を把握するしくみが確立しているか。	4	3.5
③	協定は遵守しているか。	4	3.5
④	利用者の満足度はどうか。	4	3.5
⑤	地域のため貢献しているか。	4	4.0
5項目	小計	20	18.5
25項目	合計	99	91.0

8 評価基準

(前ページの25項目(年間)合計を100点満点とする。)

	評価点	評価内容
項目別評価	4	法令等を遵守し、計画された業務水準を超える指定管理者独自の取組を実施するなど、特に優れている。
	3	法令等を遵守し、適正に指定管理業務を行っており、計画された業務水準のとおり成果を上げている。
	2	法令等を遵守しているが、指定管理業務の一部に課題がある。
	1	法令等を遵守しておらず、改善の必要がある。又は年間を通じ計画された業務の水準を達成できなかった。

ここでの「法令等」とは、法令、条例、規則、協定書、仕様書、事業計画書等をいう。

	評価		評価内容
総合評価	A	優良	市の項目別評価がすべて3点以上、かつ90点以上である。中間評価の場合は、53点以上とする。
	B	適正	市の項目別評価がすべて3点以上、かつ75点以上90点未満である。中間評価の場合は、45点以上53点未満とする。
	C	課題含	市の項目別評価に2点が1つでもある。
	D	要改善	市の項目別評価に1点が1つでもある。

9 市の総合評価

評価	評価コメント
A	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね適正に管理運営していることを確認した。 ・前法人からの引継ぎで苦労した面もあったが、一つひとつ解決を図り、安定した運営が行われている。 ・特に各種補助金を活用して自主事業を運営するノウハウに長けており、各児童センターの参考になると思われる。 ・職員との雇用契約や条件を変更があった際には速やかに書面で手交しており、また職員に対して、仕事について外部講師(中小企業診断士・社会保険労務士)による研修を行う等、労働環境の改善に取り組んでいた。 ・日常の防犯、事故があった際の連絡先一覧対応については、より具体的な内容の記載を検討してもらいたい。